京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金卅五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲一ヶ年前金拾參圓
●廣告料 ▲九號活字十九字詰一行金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 二月八日
發行兼編輯人 山下○○
印刷人 ○○○
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三番

間島の現狀(三)

小川理學士の談

●●●●地質と鑛產

間島の地盤を構成する主要の岩石は片麻岩、花崗岩、中生層、玄武岩等にして周圍の山嶽地方は片麻岩、花崗岩及び之を接觸する千枚岩、粘板岩、灰岩等より成り中央の三岡地方は中生紀砂岩頁岩礫岩等より成り玄武岩は白頭火山より北飯山其他の高山の頂上の溶岩流として被覆して高原狀を呈し又白頭山より豆滿江に沿ひて流下し遠く豆滿江の下流會寧穩城の附近に及べり

東間島の主要なる鑛產物は金銀銅石炭にして金は山嶽地の深谷に片麻岩其他の古期岩石の流礫砂利と混して沖積層を爲し其分布は頗る廣かる可しと雖も現に海蘭河の二道溝及び三道溝に於て十數年前採取せるに止まれり其盛時には各々二三千人の採金夫入り込みて多額の產金を見たる事あり銀銅は天寶山の外に未だ發見せられたるものなし現に日淸兩國間に外交上の懸案となれる同山は布爾哈通河の支流胡仙洞河の上流にありて局子街の西約十一里に峙ち明治二十三年頃持主程光第なるもの吉林將軍支配の下に官營鑛山として開坑し良質の鑛床に堀り當てしより支那式の姑息的方法に據り兩三年間は頗る多量の產額を見たるも堀り下りて排水の困難に逢ひ洋式の機械を購入し採礦を繼續したるも其使用宜しきを得ず却て失敗を招き之に引き續きて義和團事變の際同山の經營に係る建物も亦燒拂はれ全然休止の悲境に陷りたり其後外資を輸入して之を再興せんと企てたる結果日露戰役後に安東縣在住の日本人中野次郎氏と協同採掘の契約を結び吉林巡撫の許可を得て昨年十月より採礦に着手したるに翌十一月に至り延吉廳より兵を派し無法にも迫りて其事業を中止せしめたり該鑛山は一時大小數十個の焙燒爐及び熔鑛爐を備へ盛に支那流の精錬を試みたれば其鑛滓は多量にして之を分析したる結果に徵すれば銀分の殘存するの外に銅分は最初の目的なる銀のみを採りて捨てられ顧みられざりしため鑛滓の含銅分は二割以上に達するものありて今後之が精錬法を改良せば獲る所多かる可く殊に同地方は濶葉樹及針葉樹の森林立木に富み坑木及燃料の用材に乏しからざるの便あるを以つて今後事業の進行と共に銀銅の產出を見るに至る可し石炭は三國の中生層の下部に夾炭層を含み所々に露出するものありと雖も目下は僅に燒酎製造の燃料として使用するに止まるを以て產出額も從て少量に過ぎず目下採掘せる部分は何れも山に接せる小部分にして炭質も從て良好と云ふ可からず然れども或部分は比較的に灰分尠ければ今後現炭坑よりも更に有望なるもの發見さるゝの望なきに非らず此他鐵鑛も二三地方に發見せられたるが現在の狀況にては鐵石炭等は未だ鑛業として充分なる體裁を有するに至らず要するに間島は農民の移住に止まりて未だ鑛業發達の狀況に達し居らず

仁川の貿易統計

一月中

△輸出　本月中の輸出總高は二十七萬二千餘圓にして之を前月に比較すれば十七萬五千餘圓の減少なりとす就中米に於て三萬八千余圓、豆類に於て十一萬一千余圓の減少を來せりこれ原產地方騷擾のため餘波未だ全く沈靜に歸せざると河表結氷のため出廻り捗々しからざるに因る其他の輸出品に至ても前月に比して二十六萬餘圓の減少を示せりこれ河表の結氷に因るもの多しといへども暴徒の影響する所蓋し鮮少ならざるが如し試みに昨四十年一月中の輸出統計に對照するに約十萬圓の減退を示せり昨年の豐收を以てしては尙は多大の閑ひ米あるへき筈なるに斯の如く出廻はりの減少するに至りたるは地方騷擾の影響を被むりたるものと視るの外なかるべし

△輸入　本月中の輸入總高は一百二十七萬六千餘圓にして之を前月に比較すれば三十三萬五千餘圓の減退なりこれ正月用需給品は前月既に輸入を終りたる而已ならず正月は一般市況の沈靜を例とするを以て其輸入を差扣へたると來月は韓正月を迎ふるを以て例年韓人向雜貨の輸入は此月中に於て盛なるも本年は地方暴徒のため人出少く市況の不振を見込み各店とも仕込控へにて是れさへ餘程の減退を來したる等主たる原因なるが如し

△輸出統計

米	七三、二四一圓
大豆及小豆	一六〇、五九〇
鮮乾鹽魚	四
人參	七二
生牛	五、三七九
其他	三三、四〇一
計	二七二、六八七

△輸入統計

食鹽	八四〇
清酒	一三、六三七
打綿	二、三三三
生金巾及シーチング	三三四、〇一一
日本木綿	八、九七四
烟草	九九、〇八三
燐寸	九、二九七
砂糖、精糖	一五、四九五
石炭	四八、一四〇
綿織絲	七二、四一九
其他	六七二、三五六
計	一、二七六、五七五

二月中

△輸出　本月中に於ける輸出は二十四萬五千餘圓にして之を前月に比すれば二萬七千餘圓の減少なり就中重要輸出品たる米の輸出は十四萬二千餘圓にして前月よりは七萬余圓の增進にして大豆及小豆類は二萬六千余圓前月に比し七萬九千餘圓の減退なり其他人參、生牛等は輸出皆無其他のものは一萬六千餘圓に過ぎずして前月に比し一萬六千餘圓の減退なり二年越の豐作尻を受けたる韓人は正月前後の費用のため持圍ひ米を手放したるより米は前月より稍輸出を多からしめたるも何分暴徒騷念のために出廻はり例年の如からず豆類は二月に入り却て寒氣を增し沿岸廻はりのものは寒氣結氷に支へられ途中に停滯し滊車廻はりのもの漸々入津ありしに過ぎずして出穀前月に比し一層減少せり加之此の月は舊正月の休み明け遲く人氣頓と氣乘らず阪地安と出廻はり薄のため輸出振はず思はしき手合せも見れなかりし狀況なり

△輸入　本月中の輸入は一百〇八萬一千餘圓にして前月に比較すれば十九萬四千餘圓の減少なりこは正月用新衣準備既に成りたるを以て目先需用の緊らざるを見込み輸入を扣へたる結果生金巾及シーチング、日本木綿、綿織絲等は何れも多大の減退にて前月に比し約十八萬四千圓の輸入減少を示したり加之春來綿絲綿布は暴徒の影響を蒙むり出穀の減少と共に市況不相替不振の狀態に在り支那銀貨相場の暴落は清商の思惑輸入を招致したる外輸入は著しく減退せり兩月中の輸入統計を對比せば略ぼ本月の商況を推知するに足らん

	本月	前月
食鹽	一、六三〇	八四〇
清酒	六、三五七	一三、六三七
打綿	四七三	二、三三三
生金巾及シーチング	二〇三、九一五	三三四、〇一一
日本木綿	四、一九〇	八、九七四
烟草	二〇、〇〇四	九九、〇八三
石油	三五七	〇
燐寸	一六、五四六	九、二九七
砂糖、精糖	一六、六三〇	一五、四九五
石炭	四八、四四四	四八、一四〇

一月の葉錢狀況

第一銀行京城總支店の調査

米、大豆買入の盛期を經過したること一は害の爲め彼此運搬に困難なるとにより葉錢相場は漸次下落し唯僅かに北韓方面に於ける相場の騰高あるのみ南韓地方の如き一時は突飛の昇騰を呈せしも今や新貨の流通次第に圓滑となりて相場は常に下合となり全國の平均相場は前月に比し三分五厘の低落を見たり

馬山　月初に於ては納稅の爲め現錢潤澤を來たし相場下押しの氣味なりしが中旬より漸次騰貴の傾向を生じ廿三割三分に居据れり

咸興　大豆買入資金として需用多く元山南韓地方より逆輸入二千貫文に達し月末相場下押となり逆輸入を杜絕せるは一體に相場は前月に比し一割方上昇せり

城津　現錢拂底にて殆んど相場だになし

木浦　漸次流通減退し取引上使用するなし相場も先月に比し約一割の低落を見たり

平壤　市中の流通は極めて小額なるも近在並に嶺邊地方より舊正月買求の爲め持來る者多く相場は月初二十二割五分より徐々に下押し月末には二十割五分まで下落せりされど之が反動として目先多少の引戾を見るならんか當月中當地に集來せる高は約五千二百圓なり

釜山　一時は北韓方面へ輸送せられたる模樣あり近來新貨の流通良好なる爲め次第に弱氣を呈し相場下合の樣子なり

群山　全羅北道流通區域に於て米穀買金の必要上一時品不足を告げ釜山より年內に三万貫文を輸入せるも一般には流通額を減少せり

鏡城　積雪の爲め運搬不自由なるが故に葉錢の村落より出廻り更になく釜山、元山地方への移出も僅かに二百貫文に過ぎず相場は前月に同じ

元山　明太魚產地に於ける葉錢相場一時騰騰して二十六割を唱へ或は當地に逆輸入の恐れありしが下旬に至り納稅に新貨を要せし爲め葉錢相場は普通價格に下落せり

ステッセル裁判(完)

▲ゴロワン中佐の證言

ゴロワン中佐は年若き參謀將校にしてゲオルギイ勳章を有す、彼は、確信ある態度を以て大聲に證言して曰く、

「六月十三日(二十六日)支那人を乘せたる一隻のジャンク芝罘より來りて暗號電信を齎したり、本證人は包圍の初めに於て之を讀みしが、其の中の一通はクロパトキンよりスミルノフ將軍に宛てられたるものにして、其の內容は次の如し

「余は六月五日(十八日)ステッセル將軍に次の如き意味の電信を送達したり曰く、保壘地域指揮の任務終り、貴下(ステッセル)は要塞に入りしが故に會戰下に於て、太守の意見に據り要塞管理法五十七條に基き要塞の指揮を其の衛戍司令官に讓りて滿洲本軍に來られことを貴下に勸告す、貴下は滿洲本軍に於て軍團指揮官の位地を占むるを得べし」クロパトキンより」

讀み終りたるゴロワン中佐は附言を續け、

「本證人が此の電信を讀みつゝある際ステバノフ中尉室內に入り來りしかば本證人は電文を彼れに示したるに彼れも驚きたり、中尉と相談の上本證人は電信をレイス大佐に持行き、之をステッセルに送るべきや否やを問ひしにレイスは自ら持ち行かんと言へり、數時間を經てレイスは歸り來りて曰く、○○○○○ステッセルは此の電信を受領したることを何處迄も秘すべき旨を我等に命じたりと……」

言ひ終らざるに、ステッセル將軍は恰かも銳刀に觸れたるが如く跳ね上り聲を張上げて、

「被告は初めて此の事を聞く處なり、レイスは曾て斯かる公信を被告に齎らしゝことなし、被告は六月十九日(七月二日)の書信の外何物をも受領せざりし事を斷言す」

是に於てか判士長はレイス少將の說明を求むべく「レース將軍!」と呼べば、打萎れたるレイス少將は徐ろに席を起ち、力なき聲にて『被告は此の事實を全く記憶せず』と言ふ、判士席も傍聽席も一時に動搖するを見たり

裁判官は更にゴロワンに問ふて曰く、

「貴下はクロパトキン將軍の二度目の電信と書信とを知れりや」

ゴロワン「之を知れり、ガンチイウーロフ中尉は二通の電信を齎したり、レイスは之を讀み終りし後『是れ最初の電信の說明なり、ステッセルの位地に關する說明なり』と言ひたり、其の日アノエフ一等大尉來りてステッセルにクロパトキン將軍の書信を齎したり」

レイス將軍は當年の記憶を喚起して曰く、

「クロパトキンに對しステッセル將軍が書信を送りし後、其返書の到來するまでは要塞に於て此の事實を擱めざることに決せられたり」

裁判官はゴロワンに向ひ「貴下はステッセルへの公信の宛名をスミルノフと誤りしに非ざるか」

ゴロワンは確固たる調子にて「否、誤またず、本證人は當時の日記を有するが凡ての事は其の中に記されたり」と答へて日記帳を裁判官に渡せり、ステッセル將軍の辯護人ウエリヤミノフ中佐は此の日記帳の法律上の價値を破らんとせしもゴロワンは確固なる說明を與へ、遂に彼れが六月十三日(二十六日)以後の日記は朗讀せられたるが其の結果レイス、ステッセル兩將は、滿洲軍總指揮官の命令を含める重要の文書を隱匿せしこの廉を以て新に一罪を增すことゝなれり、斯の如くにして今やステッセル將軍が不法の手段を以て旅順要塞の權力を强奪したりとの事實は殆ど疑ふ可からざるに至れり

●在滿日本人　昨年中の調査にかゝる滿洲各地の日本人戶口概計は左の如し

戶數	五千九百二十九戶
人口	二萬五千二百十八
內 男	一萬五千七百七十八
內 女	九千四百四十八

小說　紅のみだれ(九十二)

永井櫻國

山田も始めて氣の附いたやう。

「お松は居ないかと思つたが居るのかい、大層靜に爲てるぢやないか。」

「ほゝゝ、だつて對手の無いに獨り談話もならないぢやありませんか。」

「そりやア然うだけれど、例も國自慢の磯節を唄ひ通しにしてるのがあまり靜だから裏に洗濯にでも出てるのかと思つた。」

「いゝゑ、四疊半でお針爲てますわ、まだ親言も濟まさない中に、赤兒が出來たなんて私極が惡くて爲方がありませんから、お松にも成るだけ知らさないで下さいよ。」

「那樣心配こそ要らない心配ぢやないか、お前と私の間を知らないお松ぢやあるまいし、それに隱し通しに隱せるものでもなし今に漸々太きくなつて誰にも見ゑるんだもの、お醫者は幾月目だと云つたね。」

「モウ三月だそうです、貴方は那樣暢氣さうな事云つて居らつしやるけれど、私眞箇に心配ですわ、モウ一二ヶ月も經つて御覽なさい、お腹は人目に立つやうになる若しくはなる、寄席の方も其れきり廢めて了はなきやアならないし、お養父さんは火のやうになつて怒る事は極つてますし、大川の方は斷らなきやアならないし、出來るまでにお金子の準備も爲なきやアならず、それにまた初てゞすから、自分の軀も案じられる、どうなる事かと氣が沈滯ますわ」

意志が弱いやうでも、有繋に妙齡の太く煩悶する風情である。

「しかし、そりやア滿ちやんが胸中は僕も察しるさ、案じるけれども、僕は姙娠と云ふ、事が確實になつたので、何彼につけて都合が宜くなつたと思ふのだ、何故かと云ふに、大川の結婚問題だつて、六ヶ月先では必ず嫁くと云ふ事になつて居つて見れば、いくら滿ちやんが可厭だと云つても彼の剛情な養父さんの事だから、是が非でも遣る唄ひ、だが大川の方にしては、他人の胤を宿してる女を、如何に戀ひ焦れて居るにしても、其でも貰ふとは豈夫云ふ氣遣はない、して見ると、大川との結婚問題は否でも應でも破れて了ふ、其處へ私から斯樣々々な事情だからつて頼む事にすれば、あゝ云ふ人だから怒るには怒るだらうが、到頭の結局は兎まで出來た間なら爲方がない、と云ふ事に爲るに極つて居るさ、然うなれば、大川の方も此方も一時に埒が明いて、却つて思が早く協うと云ふもんだ。又、お前の軀だつて、初てだから心配するやうなもの〻、案じるより產が易いつて前ばかりぢや無い、皆な產のだもの、心配する事があるものか、まあ〳〵、愈よ妊娠と極つたのなら、種々な事を快々思はないで氣を大きく持つて、世の中の事は爲るやうに爲るもんだと覺悟してるが何より安全だ。」

「それやアモウ、私だつて始めから覺悟してるんですから、末は望み通りに爲るとは思つて居ますけれど、爲つて見るまでは矢張心配で堪らないんですもの。」

「まあ〳〵斯うなつた上は、自分の軀を大切にするが何よりの事だ、必ず心配せんが可い。」



京城新報

伊藤統監の誤解

伊藤統監の韓國統治方針は徹頭徹尾誤れり、余輩は屢々之を論難せり、然れども尚ほ未だ迷夢覺醒せず、惟ふに其方針の甚だしく誤謬に陷入れる原因は、伊藤公の韓人觀が誤れるに因らずむばあらず、見よ公が東洋協會に於ける演說を

「皇太子を御誘導申すことゝなつたが之に就て自分は我皇太子に對して誠心誠意を以てやるだけの事は韓國の皇太子に對しても同じ事力の及ぶ限り精神の及ぶ限り總てをやる積である之にて韓國が動かざれば韓人は無神經と見るより仕方がない云々」

余輩は此誠心誠意が誤謬なりと斷言するに憚からず、公は韓人も日本人も同樣に思へる也、然り日本は建國以來皇統連綿其臣民の皇室に對する忠義の感念は世界何れの邦國にも見る可らざる程に超絕せり、然るに公は韓人亦た斯の如くなりと思ふが故に斯る躊語を發するならむ、之れ誤謬の原因也、韓人の皇室に對する考は斯の如くならず、公が皇太子を日本に誘導するとせざるとは韓人に取りては何等の刺戟とならざるのみならず、隨て公の誠心誠意に隨喜の涙を流さゞる也、此點に於ては公の所謂無神經也、要するに公は日本に於て此手段を以て成功せり、韓國にもその同一手段を採らむとする公も亦た迂せる哉、其誠心誠意に多少難有味を感ずるものあらば、乃は太皇帝及嚴妃也、それすら餘り喜ばざるのみならず、餘義なくせられたるなり、皇室の信任を得ることが如何に伊藤公の專賣特許なりとは云へ、韓國にも之を試みむとするに至りては誤れるの甚だしきもの也、この見易き見解を誤る統治の實蹟擧らざる蓋し當然也、余輩は更に警告す、放屁義にも敗けるを嫌ふ敗け惜みの根性を捨てゝ誠心誠意余輩の言に聽て可也。

外交團の置土産

圜丘壇（下）　對星樓山人

昨日は迎恩門に於て淸使節を迎へ、今日は露國公使館に行在所を移し、明日は世界に對して太皇帝と稱する其大膽なる變化は到底測度し難き外交術である、而かも漢城の外交團は全く沈默を守り、混雜なれども莊嚴なる帝國旗と皇帝旗は貞洞の六角堂上に建てられた、年號まで改めて光武元年となつた。

當時宮廷に於ては露國の威壓が意外に激しかりしため、露國の要求が餘りに過大なりしため、稍もすれば外交團の權衡は一方に偏重し、頗る苦るしき狀態が出來たのである、斯る機會に際して皇帝式を擧行するなどは、皮肉の外交術である、皇帝式は露國に對する過大の懸値を申込むだので、恰かも日露開戰に際して嚴正中立を表明したのと同一の征法である、幸にも此懸値を破るべき露國が却つて贊同したりしは慶運宮建立の端緒となつた。

顧みれば宮廷は悉く歸化露人の跳梁に任かせ、數三年間宮殿は兵燹を蒙りて恰かも敗戰の後と均しく大宮人の大半は市井に隱れ實に宮廷の衰榮は憐むべき狀態であつたのである、王妃陷落より以來宮人一日も安き心地せず、北人の荒くれ男のみ威勢好くして居る、恰かも平家六波羅滅落して間も無く木曾冠者の入洛禁衞したる平安の朝廷も斯る光景なりしなるべく、此の時に皇帝稱號式とは殆んど狂亂的に想像したものあつたが、蓋し其の實は宮廷外交大成功を示した一段落であつた。

一たび此企劃成るや、慶運宮の造營となり清涼里の后陵築造となり、皇太子殿下は獨立協會の名譽總裁とならせられ、迎恩門は獨立門となり、忽ちにして漢城外交の覇權を握れる露國公使に對して宮廷外交は同軌道で走るべく休止し、外交團は均勢的狀態を回復した、ブラオン氏とアレキセエフ氏が財政權に就て權限爭ひ間も無く開幕されて、獨立協會は露國の專橫を憤慨し始めた、政權の中心たる金鴻陸は罰せられて流配となつた、露國外交の御手先たりし李[illegible]は排斥せられた、米國人サンズを招聘して韓廷の最高顧問となし、國際法の研究と憲法發布の準備委員まで任命となつた、只だ皇帝に上れる容權の祭禮によりて漢城外交團に變遷を與へたる其狀態は頗る敏快なる廻舞台であつた。余輩は後年[illegible]を見て其寂寞として空しく市街の上に聳ゆるを仰ぎ、韓宮廷の尤も成功したる外交の遺產として謳歌せざるを得ない。

北京報電

▲辰丸事件解決　辰丸抑留事件に關し淸國政府は我要求を容れ一、辰丸を解放する件二、當該官吏を處罰する件三、國旗引卸しに對する謝罪の件四、損害を賠償する件を總べて承諾せり

▲駐淸露公使逝く　駐淸國露國公使は心臟病にて逝去せり　（以上八日東京經由）

東京電報

▲淸公使の外務省訪問　淸國公使は本日外務省に珍田次官山座局長を訪ひ辰丸抑留事件に就き陳述する所ありたり

▲臨時閣議　本日辰丸抑留事件に就き臨時閣議を開き審議する所ありたり

▲三池開港　筑後國三池を四月一日より開港する事となれり　（以上七日午後發）

各地電報

▲天道教主傷けらる　天道教主孫秉熙は昨夜鐵山にて地方民に負傷せしめられ當地に來り治療中事實は目下取調中なるも加害者は暴徒にあらず　（七日新義州發）

▲騎兵隊の討伐　全州騎兵隊は昨日仁川東方約一里の地に於て賊と遭遇し其の二十二を殪し首魁張承安を生擒し全滅せしめたりとの報あり　（八日全州發）

雜報

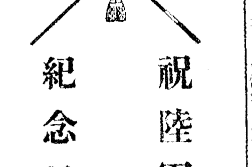
●乾元節謁見　十日乾元節に付き午前十時三十分參內し昌德宮に於て午前十一時より內外文武官に謁見を賜ふ由にて統監府よりは曾禰副統監を始め各高等官鐵道管理局通信管理局法務院理事廳等の各高等官軍司令部よりは長谷川大將以下重なる武官參內謁見の後夜會を九時より開かるべしと云ふ

●乾元節次第　本日は乾元節に當り宮中に於ける內外臣僚の參賀及び賜餔の次第を漏れ聞くに左の如し

一、內外臣僚の參內謁見の時刻（京城時間）宮內府高等官以上午前九時、內閣及び各部親任官並に勅任官同九時三十分、統監府高等官同十時、駐劄軍司令部員少尉及同相當官以上同十時三十分、在京領事團及び雇外國人奏任待遇以上同十一時

二、賜餔　同夜八時三十分より敦德殿に於て內外臣僚を召され餔宴を賜はる參列者は內閣各部及び宮內府奏任官四等以上統監府高等官駐劄軍司令部員少尉相當官以上在京領事團及び奏任待遇以上の外國人にして八百七十五人の豫定なり

三、內閣及び各部の奏任官は午前九時より正午迄に參內し仁政門外東行閣に備へある參賀人署名簿に署名すべし



祝陸軍紀念日

●提灯行列御覽　十日乾元節當夜は府民等は提灯行列をなすことは既報の如くなるが皇帝陛下は其盛況を御覽あらせらるゝ爲め敦化門に臨御相成る由

●太皇帝下賜金　本日乾元節祝賀の爲め催さるべき漢城市民聯合提灯行列會に對し太皇帝より千圜嚴妃より五百圜を下賜されたりと

●乾元節と各學校　韓國各學校にては本日乾元節に付き祝意を表する爲め提灯行列を行ふ由

●繪葉書發行　本日韓皇の乾元節紀念として度支部印刷局に於て繪葉書千組を製造し韓皇に獻上し殘餘は各官吏に發賣する由なり

鑛業試驗場官制

五日付にて勅令を以て鑛業試驗場官制を左の如く發布され頒布の日より施行することゝせり

第一條　鑛業試驗場は農商工部大臣の管理に屬し鑛業の改良と發達に資する調査及試驗に關する事務を掌る

第二條　鑛業試驗場に左の職員を置く

場長		
技師	專任三人	奏任
技手	專任十五人	判任
書記	專任十人	判任

第三條　場長は技師を以て充て農商工部大臣の指揮監督を承け一切の場務を掌理す

第四條　技師は上官の指揮を受け場務を分掌す

第五條　技手は上官の命を承け場務に從事す

第六條　書記は上官の命を受け庶務及會計に從事す

第七條　農商工部大臣は必要と認むる地に鑛業試驗出張所を設け本場職員を派送して其事務を分掌せしむることを得

第八條　鑛業試驗規程及出張所位置と改稱は農商工部大臣之を定む

●豫備金支出裁可　內閣會議の決議を經て上奏裁可を得たる豫備金支出額は左の如し

金三百九十一圜四十錢	內部本廳俸給
金一萬三千七百六十圜	特設巡查隊費
金百圜	水雷發見者賞與金
金五圜八十五錢	漂民救還費
金千三百五十圜	法部任用旅費
金千二百七十圜	法部任用旅費增額

松井局長の暴徒談

客年來三南地方の各警察署觀察府郡衙の巡視を兼ねて同地方の民情視察中なりし松井警務局長は群山公州全州木浦光州羅州晉州大邱の各地到る處に於て警察官を召集して詳密なる訓示を與へ一般地方民を集めて時局に關する訓諭をなし且つ地方の有力者と膝を交へて時勢を語り約四週間を費して一昨七日歸京せしが同氏の暴徒に關する觀察を聞くに同地方の暴徒は軍隊の解散、日本官吏の任用郵便局の稅金取扱ひ及び第一銀行券の流布等を以て日本が韓國を併呑せんがためにするものなりと誤解して新政に反對せる所謂眞の義兵と稱すべき政治的意味を有する者並に新政の結果其職を失ひたる軍人官吏の不平黨と例年地方に蜂起して民財の掠奪を事とする火賊及び之等の者に煽動せられたる良民等種々の分子を有せしが如きも其の大集團を存せしものは討伐隊の盡力によりて離散せられ其の良民の過つて賊に與せし者は免罪の典を蒙りて續々歸順しつゝあり今は各所に小團体の賊徒を殘すのみにして之等も多くは火賊の徒に過ぎざるものゝ如く既に軍隊の配置も行屆き且つ巡查隊も組織されたれば日ならずして鎭靜に歸すべしと雖も地方民中には日本の政策及び韓政府の施政に對し甚しく誤解をなせる者多く單に威力を以て一時の靜平を見るも其の根本思想にして改まらざるに於ては永久の平穩を保つを得ざるべし而して之等の誤解を去らしむるは直接人民に對する警察官の最も努力を要する所にして巡視中地方の兩班儒生等の暴徒鎭靜に關する意見を聞くに或は古來の鄕約（自治組織）なるものを再興すべしと說く者あり或は新たに韓國の徵兵を行ふべしと述ぶる者あり或は韓人巡查を多數に採用すべしと云者あり或は昔時の砲軍を組織すべしと說き或は地方に事業を起して遊民に職を授くべしと述べ或は地方民の騷擾は直接人民を治むべき郡守其の人を得ざるによるを以て好適の人士を選びて之に任すべしと云ひ或は古來の風俗習慣を顧みずして一朝に其の俗を改め其の法を革めんとするは餘りに急激にして民心を鎭むる途に非ざるべしとの說をなす者あり而して中には種々耳を傾くるに足るものなきにしも非ず之を要するに今一層地方人民保護の機關を全ふし同時に官民意思の疏通を圖り其の誤解を去りて官憲に信賴せしむるは目下の急務なるべしと

●晉州の日本人會　晉州日本人會は從來內訌を極め其の維持にも困難しつゝありしに今回在晉州の官吏卒先入會し守備隊も其の振興に關し盡力する處ありしにより大に盛運を呈し會の基礎鞏固となるに至り先づ一、日本人會事務所を設くる事二、晉州三千浦間道路開鑿の目的を達する事三、水源を南江に求め飲料水の供給を圖る事四、日韓人聯合消防の設備をなす事五、日本人小學校の設備を完全にする事六、淸潔保持のため日韓人聯合衛生會を組織する事等を決議し地方日本人の發展を企圖せりと云ふ尙ほ同地觀察使郡守も其の趣旨を贊し充分の盡力をなすべしと

●各國教科書飜譯計畫　韓字新聞の報ずる所に依れば興士團にては各國の教科書を飜譯するため日、英、獨、佛語に通ずる者約八十名を招聘し前記諸國の書籍を新に譯述する計畫なりと云ふ

●城壁破壞着手　京城の周圍を圍繞する城壁は交通發展の今日城の內外との交通不便少からざるを以て內部にては之を破壞することゝし其委員さへ任命せしことは既報の如くなるが愈よ明十一日東門より破壞に着手することゝせりと

●在韓兵の服役延期　韓國に在る第十三師團及び步兵第十二旅團の諸隊に屬する兵卒にして現役期限滿つるものは徵兵令第七條に依り當分其服役を延期する旨四日陸軍省令を以て發布されたり

●賊魁射殺の詳報　去月廿四日江原道原州郡白楊山江陵及び其の附近を行動せし賊魁閔肯鎬の所在搜索に全力を盡すべき命令を承けたる警視權重翼の一隊は廿五日忠州を發し翌日原州郡城南村に着し偵察するに此の地方は平穩なりしも寧越方面より來れる者の言によれば二月十八九日頃閔肯鎬は寧越九龍山[illegible]村に於て日本軍と衝突し物品若干を遺して退却せしとの事なりしを以て廿七日午前七時同地を出發し講林を經て白楊山全部の大搜索をなす事とし同日午後十一時講林に到着せしに時恰も三晝夜に亘る大暴風雨に遭ひ道路杜絕せしを以て止むを得ず廿八日は同地に停止し廿九日午前六時風雨を冒して出發せしも江水氾濫して跋涉し得ず途を轉して獅子山九龍山に迂回し行く〳〵搜索して獅子岬に至りし時斥候より閔は厳德里に原州解散兵にして精銳なる銃器を携ふる八十七名の部下を隨へ停留中なりとの情報を得たるを以て午前十一時巡查崔弘林外六名を厳德谷東方高地に進出せしめ權警視は巡查七名を率ひて南方高地を占領し一齊射擊を開始したり賊は一部を西方朴達山に他の一部を厳德谷の民家に據らしめ射戰甚だ努め約二時間に渉るも頑として動かず尙急射一時間の後ち巡查崔弘林は其の率ふる全員を提げ突貫を試みたるも猛烈なる狙擊を蒙りて目的を達せず茲に於て權警視は二時二十分頃全力を以て朴達山に突擊し猛射を加へて退却に遑あらざらしめ閔肯鎬が民家に潜伏せしを追跡して遂に逮捕し午後五時講林に歸着宿營せり然るに其の夜半閔の左右軍約六十名宿舍に襲來し約五十米突の距離より「大將閔氏は何處に在るか聲を揚げよ」と連呼しつゝ突擊し猛射急なり我亦墻壁に據り應戰して之を擊退せしも閔は夜暗の混雜を利用して逃走せんとする狀ありたるを以て止むを得ず射殺し死体を原州に運搬し閔の知人特務正校鄭壽達郡主事安台玉に示して其の相違なきを確めたり此の第一回の戰鬪に於て賊の死者厳德谷に於て七、朴達山麓江中に漂流せる者十數名にして鹵獲品は三十年式連發銃モーゼル銃短銃各一彈丸百十望遠鏡時計各一金十五圜『領衛營信義印』『義兵將印』『司令部中軍所』と刻せる木印各一其の他雜品若干あり第二回の戰鬪に於て賊の死者一、我損害は輕傷者四名及び銃器二を破損せしのみなり

●第二次民會　京城居留民團にては既報の如く去る七日民團役所樓上に於て午後七時より第二次民會を開き委員報告通り一瀉千里の勢を以て諸規則を議決し同九時閉會したり

●第三次民會　第三次民會は明十一日午後七時民團役所樓上に於て開會し四十一年度事業に對する豫算案に就て議する筈なり

●學校建築委員會　仁川民團にては昨日午後五時より學校建築委員會を開き小學校改築に關し審議せりと云ふ

土地使用承諾　水道鐵管布設に付き扭峴新設道路突端より松林山松林里配水池に向つて送水鐵管布設の線路に當れる地は加來榮次郎、龜井萬吉郡金三郎板倉政次郎四氏の所有に係れるが此程該線路用地山野六百三十一坪畑六十坪荒地二百九坪の無償使用を承諾せりと云ふ

●仁川郵便局取扱數　仁川郵便局にて先月中に取扱ひたる郵便物數を聞くに如左

市內	着	一八、八五七
市外		七五五
書狀	發	三九、三四八
ハガキ	通常	二七、六九二
	往復	三二七
	封緘	一〇三
	私製	五、一六七
新聞雜誌		二七、七一五
書籍書類		一、三六六
業務書類		二、〇六九
見本		二四九
農產物種子		四六
無料		三、五九四
計		一〇七、五七六

●運輸部の紀念祝賀　仁川陸軍運輸部にては本日午前十時より陸軍紀念祝賀會を開催し午後より劍舞落語手品等の餘興あるとのことなり

●水產調査員の出發　農商工部にては全國の水產業殊に漁業の調査をなすため全國沿岸を十數區に分ちて人を派する事は既報の如くなるが同部技師庵原氏は昨日統監府技師其他十數名と共に釜山に向け出發せり此の一行は五十日の豫定にて南海岸及び西海岸の調査をなす筈なりと云ふ

●統監府訪問　鐵道管理局工務部長技師石川石代同技師鶴尾謙親の兩氏は九日午後一時統監府に副統監石塚長官代理を訪問したり

▲明十一日臨時休刊▼

近事片々

▲韓皇　父君を德壽宮に訪せ玉ふ之に陪從する宮內官の馬車不足孫秉熙の馬車を借る

▲京城　は今や馬車の時代完用允用は既に調製其他若馬車に苦心す之れ統監政治の賜

▲韓人　は形式的流行を追ひ早き日人に優る見よ京城の高襟連之に馬車を見せ付ては

▲馬車　熱は小役人に迄流行馬車が欲しいと泣言云者有馬車に苦勞とは馬車々々しい

▲乾元　節を祝する提燈料皇帝后より下賜せらる提燈料御手元より給して祝賀せしむ

▲斯く　せざれば提燈行列をせぬ韓民何程伊公が皇室へ取入も我不關焉と冷に空嘯く

▲完用　善準載昆允用等額を鳩めて一黨組織に鞠窮す天下太平の裏面には暗流急奔す

▲宋秉　畯伊藤に昵近して之を打碎き自己の勢力を得んと腐心一方ならず勝敗未可知

▲完用　の親日も此先き余り長からしと京童謠ふ然り變心の自由自在なるは渠の特色

▲保護　と合併とは我の關する所に非らず要は善政治下に生活することを望と一韓人云

▲韓國　由來眞の獨立無獨立云々の名に重を置かず堯舜の政治を施されば民皆喜ばむ

▲韓人　にして此言あり人道よりするも保護國と屬國の別無只善政耳宿題は是で解決

▲土耳　古との修交條約今に締結せられず我霞ケ關も餘り呑氣其斷始てより幾年乎

▲東歐　風雲急なる今日當局痛痒を感ぜざるか若し感せずと云ば林董先生は無神經也

▲君斯　丹丁能保には早く大使館を置かざる可らず修交條約何か爲に困難か敢て聽む

▲半月　旗と日章旗の早く既に修交條約の結ばれ可きが當然亦た之れが相互の利益也

▲當局　者心せば彼のノルマントン件の時出來たる也夫を今に恐鬪付とは呆れ返る

●韓國拓殖會社の目的　現今式一
の原料を供給するにも先づ韓國の農業を改
の場合には農業附帶の工業をもなさんとす
他取締上につきて多少の警察權とか道路、
ことは之なき筈なりといふ、されば勿論彼
勵すると略同樣なるものにて唯韓國の內地
●板倉五八支配人辭職　昨今兎角の評あ
る第五十八銀行の仁川支店長にして同地民

●韓國拓殖會社の目的　現今或一部に於ける韓國拓殖會社の資本および其目的に補遺する所あらんとするものを聞くに日韓貿易を盛にし殖産工業を起し若くは工業の原料を供給するにも先づ韓國の農業を改良し各種の物産を繁殖せしめざる可らず而して韓人の手のみにては到底望むべからず乃ち會社は日本農民を盛に韓へ道に移植し日本の中小獨立農家を作り必要の場合には農業附帶の工業をもなさんとするにおりて要するには農事改良は其主たる理由なるべく特權を獨占せんとするが如きことは決して之なく唯移民部落を作るについて衛生その他取締等につきて多少の警察權とか道路、溝渠、堤防等を作る場合において韓人を使用するに付き物件につき關税の免除を得るとかいふ位の特權を得んと欲するのみにて他の日本人の事業を害するが如きことは之なき筈なりといふ、然れば勿論彼の英獨佛諸國が印度、阿非利加、又は南洋諸島に特許會社を設けたるは倣はんとするものにあらず又右等の特權を得んとするものにもあらず要するに北海道に移住民を奬勵すると略同樣なるものにて唯韓國の内地に於て營むが爲に半官半民的設立會社に於いて經營せんとするに過ぎざるなり尤も之に關する法案は今尚政府の審議中に屬し未だ上奏の運に至らずといふ



五雲會傍聽記

寶生流の三月例會は一昨八日午後より本願寺別院に於て開催ありしが、來會員二十餘名の外傍聽者も七八名ありて盛況を極めたり

△初番麾刈　シテ本田氏ツレ岡本氏ワキ田中玄氏、何れも淡く麗しく謡はれたり、惜むべきは第一の段に至り地方の調子シドロなり「風の渡るも亂るゝかたを波」のあたりより「風のあけたる古簾」の大切の聽き所が不揃ひ勝ちなりしは殘念々々

△二番目藤戸　シテ鮎貝氏ワキ田中寶氏、是れはワキ物中の謡ひものとして本日第一の聽きものなりと待ち受けしも左程立派の出來とは云ひ難し、嫌味タップリなるワキと無邪気振りたるシテ、此番組の精神と反比例を爲して聞苦しき思ひあり、凡て謡は平氣に謡ふべし餘り氣取り過ぎれば却て妙味を害ふの患ひあり注意すべきことなり

△三番目半蔀　シテ澁谷氏ツレ島氏ワキ熊谷氏にして流麗妙なるシテの音調、春雨の中に美人の琴聲を聞くに似て趣味の津々たるを覺ゆ、地謡も一層引立ちて四面に楚歌の聲の中にあるよりは英雄の心緒も如何ならんと思はしめたり、望むらくはツレの氣合今一段の力を加へなば申分なかりき

△四番目西行櫻　シテ増戸氏ツレ岡本氏ワキ長谷川氏「埋木の人しれぬ身と沈めども心の花は殘りけるにや」のシテの出、如何にも心憎く思ひたり、其よりワキとの掛合、それ〴〵自から心持のある所、恰ながら嵯峨野の春を目前に見る心地して、卷の了るを惜へざらしむ

△五番目經政　シテ長谷川氏ワキ島田氏、兩君の老巧なる斯界既に定評あれば惡しからう筈なし、就中シテのクセ上『一聲の鳳管は』のあたり流暢にして堅實なる満場水を打ちたる如くに鎮りて面白き事なりし、唯惜むらくは、ワキの餘りに熱心なる結果文字又は假名を誤謡みする弊あり、演者は今一番の留意あるべからず、妄評多罪御免候へ(傍聽生)

在仁徴兵適齢壯丁數

本年徴兵さるべき在留壯丁中仁川に於て受檢すべき人員は二百餘名なるが其府縣別を聞くに左の如し

山口	三四	熊本	一二	千葉	四
香川	八	長崎	二九	岡山	八
和歌山	三	東京	三	大阪	五
大分	一五	佐賀	七	滋賀	二
愛媛	六	徳島	四	宮崎	三
愛知	六	福井	三	兵庫	六
京都	二	新潟	二	福岡	二
奈良	三	岐阜	二	鹿兒島	二
高知	一	石川	一	三重	一
神奈川	一	山梨	一	鳥取	一
				宮城	一

倘ほ檢査は京城南山町本願寺別院に於て四月四五の兩日に執行する筈なり

●凱旋丸の龍巖浦廻航　龍巖浦陸軍運輸部所屬の小蒸汽凱旋丸は同港結氷中仁川に廻送され居りしが目下同港は全く解氷したるを以て仁川陸軍運輸部にては來る十二日同船を龍巖浦に廻航せしむる筈なりと云ふ

●御用船の入港　一部御用船咸興丸は宇品より軍需品七百三十四個及乘馬十八頭及び軍人軍族便乘二十九名を乘せて昨日仁川に入港し直に陸軍運輸部仁川支部に揚陸したり

●組合請願　京城町にある韓人洋靴店主等は組合を組織せんことを農商工部に請願したりと云ふ

牛乳配達の戀

▲寫眞で惚られた美人は誰れ

古くは紺屋高尾、幾代餅、近くは金瓶大黒の今紫の話によく似た戀物語りこそあれ、二月の末の空も朧に夜はまだ宵の程なれど格子越に洩るゝ燈火の影淡く、そゞろ物靜かなる麴町富士見町待合菊の家の前を行きつ戻りつ、茲こそ飛白の綿入黒木綿の紋附羽織に黒中折帽と云ふ學生風なれ、雪駄の足音を偸む心意氣は小春に焦るゝ紙治を其まゝの二十四五の男あり、少時ためらひし表口に立ち寄つてガラリと開くる格子戸の音にさへ胸躍らしつゝ『今晩は』と小聲におとなへば女將はそれと心得て二階の一室に案内し『お馴染は』と聞く、男はいとも極り惡げに唯スパ〳〵と卷煙を吹かすのみなりしが、やがて懷中より百美人投票の文藝倶樂部附錄を取出だし『この寫眞に出て居る鈴村家りん子と云ふのを呼んで貰へますか』と云ふ、『へゝ〳〵、誰れでも好きなのが呼べます』『それでは早速』と女將が降りて稍や半時間、男は動悸頻りに高くなりて起つ居つ腰も据らぬ其處へ『今晩は有難う』と襖を開いて現はれたるは紛ふ方なき寫眞の主、當年取つて二十になつたばかりの、花ならば今が見頃と云ふ風情、造り花を見るやうな寫し繪の面影とは事かはりこれは色あり匂ひもあり、露を帶びたる嬌態膓もとろけるばかりなれば、男は今更ながら其美に打たれ耳も頰も眞赤にしながら『さアこれへお坐りなさい』と自分の敷いた座蒲團を取つて差出すに、りん子は有繫商賣柄はやくも始めての藝妓買ぞと悟りし色を顏にも現はさず、『どうした譯で私をお名指で』と側に寄る、男もかうなつては度胸もすわり何を隱さう、此文藝倶樂部で寫眞を見たが顏の見初め、忘れやうと思つても忘られぬ儘、どうかして一度は逢つて見たいと思つたけれど、牛乳配達で學資の補助を作つてゐる身に藝妓買の金が出來やう筈がなし、駿河臺のミルクホールの主婦に相談すると、ナーニ、儉約して金さへ貯めたなら譯も無く逢はれるとの事に、又氣を取なほして、一生懸命に稼ぎ、理髪料や入浴料まで詰めて、やう〳〵五圓と云ふ金が出來たから、思ひ切つて此處へ登つて呼んだのです、よく來てくれました、僕の望みも叶つて斯麼嬉しいことはない』と眞心色に見えて虛言とも思はれず、酒も飲まねば肴も喰べず、頭髮を分けて來たのを氣にして我知らず手をやること數回、かくて三十分ばかりを經るや、りん子は眞面目になつて男に向ひ『そんなにまで思つて來て下すつたのは嬉しいけれど、貴方も今が勉強盛り、將來に望みのある方でござんすから、此後成るべく遊びなどはなさらぬやうに』と意見を加へたるに『よくわかつて居ます、かうして一度お目にかゝりさへすれば僕の望みはもう達した譯ですから、此後決して勉強を怠りません』と云ふ、りん子は寧ろ其心根がいぢらしく燃ねたゝんとする戀の焔を強て抑へ、帳場に行きて此由女將に語れば、女將も男に同情を寄せて、出來る限り安く積つて勘定が三圓十五錢、五圓の中から一圓八十五錢の剩餘が出たるを男は『五圓だけ悉皆費ふ積りで來たんだから、これで何かお取り』と云ふ、りん子は『そんな無駄なお金を費はぬやうに』と無理に懷中へねぢ込み、俥に乘らうと云ふのも止めて電車道まで送り行き『左樣なら、御機嫌よろしう』と手を別つたきり男の名さへ聞き洩したるが、殘る浮名は『牛乳配達の戀』とて評判此界眼に隱れもなしとぞ、

●韓人に取押へらる　去る八日の夜駱洞の鄭重先の妻江陵(十九)といふ蝸甫に一夜の情を買ふて我こそは千葉縣山武郡千代田村といふ田舍に生れたれども今は勿体なくも天下に大政治家として其の名を許されこの韓國にては准皇族皇太子大師と仰がれ賜ひまつた本國にては恐れ多くも一天萬乘の君の御親任篤く位人臣を極め正一位大勳位公爵米國名譽法學博士統監府統監といへば名までは言はで名も著き伊藤博文公の南山の御邸に朝夕仕へまつり利巧者と褒めらるゝ萩原佐助(四十)とは我事なり落花意あらば流水豈情なからんやで汝に親切あらば我に未だ定まれる妻とてもなければ宿に引き入れてやりもせんと切りに吹き立てたるを江陵は多少は日本語も出來ることとて最初の内は左樣か〳〵と聞き流し居りしが四十幾つの爺づらの女房にならないでも妾には夙に鄭重先といふ定まつた夫があると言はれて此の奴憎くいことを吐かし居ると其の面部をぶん毆りたるより江陵は恐れて庭に飛出し石に躓いて轉けし所へ佐助追かけ行きて蹴る毆るの騷ぎを聞きつけ金軍五といへる韓人が仲裁に出で來れるを是れまた毆りつけしが其物音に四五の韓人寄り集り佐助をれつ取卷いて手とり足とり取押へ警察署へ連れ行き斯く〳〵と屆け出たるに佐助は大に面目を失ひ今後は乾度謹みますと閉口しての引下りしと見て來た生より投書のまゝ書の如し

●戀意だから喧嘩　心易い内に垣をせよとの諺はかゝることのあればなりと愛に說き出すは去る八日の夜大平町二丁目の飲食店若狹屋こと高津リキ方へ豫て戀意にせる長谷川町二丁目の飲食店浪花亭の主人上田外次郎が遊びに來たるより能うこそ出でと台所で兩人差向ひで飲み始め四方山の話より心隔てぬ仲のことゝて互に問答を爲せしに或る一言が外次郎の癇癖に觸りしと見えて人を馬鹿にし居るなどリキの面部を毆打せしにリキも女ながら飲食店を營むほどの剛の者なれば負けては居らず双方立合ひとなつて組んづ揉んづ挑み合ふに仲居酌婦どもは是れを鎮めかねて警察署へ訴へ出で巡査が出張するなど一時大騷ぎをなせしが醉が覺めて見れば元の戀意の間柄のこととて更らに仲直り酒を飲んで寔に濟まぬことをしました、イヤ私こそ醉中にて何んな御不禮を致したやら一向覺にませぬといふにて無事に納まりしとは結構々々

●喧嘩を買ふて膏藥代　去る八日の午前九時頃南署晦洞の朴某女(十二)が櫻井町の共同井戸に於て水汲みをなし居る處へ愛媛縣越智郡今治本町の者にて目下櫻井町幾野悅明方雇人なる吉田政光(十七)が同じく水汲みに行き戲れに朴女の裾を捲くりしに朴女は大に憤つて急ぎ歸り斯くと母に告げたるより其の母驅け來つて政光に對し其の不都合を詰りしかば政光は恐縮して居る處へ山口縣生れの池田市助(三十)が來つて娘の尻を捲つた位のことに何を恐鬪々々吐かすかと言ひさま靴にて娘の母を蹴り微傷を負はせたるより終に警察署へ持ち出されしが市助は膏藥代五十錢を辨償して說諭にて事濟みとなれり

●亂暴者　去る七日の夜韓人車夫黃聖三なる者新町派出所へ出頭して唯今日本人の爲めに人力車を破損せられたりとの訴へにより居合の巡査は直ちに出張して其の加害者を追跡し本町六丁目にて追付きたるに其者は巡査を見るや兩肌を脫ぎて巡査に抵抗したるが遂に取押へられたり此の者は千葉縣の者にて本町六丁目に住する利根川長吉(三十二)といふ亂暴者なりし

●怪しき女　南部警察署福田巡査が去る八日午前一時といふ草木も眠る頃南山おろしの風に吹かれて本町四丁目を巡回の折しも東の方より急ぎ足にて來れる者あり見れは年まだうら若き女にて裝ひのよしあしはさだかならねど星月夜の光りにて其の樣の素人ならぬことの分りしより扨ては新町の藝妓が足拔せしにはあらずやとの疑を以て何人なりやと尋ねしに彼れ女は聲顫はし私は南大門通二丁目の花屋に居れる酌婦なるが今夜明治町の下宿屋迄リツ方へ行きて其の歸りなりと云ふも其の逃げ去らんとするより彌々不審の奴と再び押し留、原籍姓名を尋ねしに更に何ぞと言ひ遁れんとし詰問急なるに及んで秋生れの中島サチコ(二十)といへる者なりと答へたるも何は疑はしきを以て警察署に連れ歸り酌婦の藝張を調べ見しに斯る名の記載あらず此の如まゝ〳〵胡亂なりと嚴重の調べに及んば所遂に包む能はず實は愛媛縣溫泉郡阪本村の重松ツジ(二十)と申すものなるが未だ鑑札も受け居らざるより其の發覺を恐れて斯くは虛言したりと申立て大眼玉を喰つて引き退がり今夜は命が十ばかりも縮まつたと溢し居れるが近來の滑稽なりし

●飲代の抵當は贓品　去る七日の夜明治町二丁目の飲食店手島章平方へ一人の客來り九十五錢ばかりの散財をなして唯今現金の持合せなきにより一寸此の自轉車を預り置き吳れよとて外出せしまゝ一兩日を經れども何の音沙汰もなきより同町の自轉車屋阿部方に至り此の自轉車に見覺ねどもはなきやと尋ねし所是より先き阿部方へ巡査來りて本町五丁目の永田喜兵衛方に自轉車を盜難に罹りたりとの話をせしさて其旨を告げたるより章平は扨ては贓品なるかと愛に始めて詐欺にかゝりしことを知り警察署へ屆出で取調の末加害者は下關市豐前田町の者にて目下窃盜犯にて入監中なる山崎良一(二十)なること發覺し自轉車は被害者永田方へ手戻りせりと

●醉漢酌婦に噛みつく　去る七日の夜明治町二丁目の飲食店春の屋方へ永樂町一丁目の村田組に居れる山口縣人國廣萬吉(三十)が入り來り一杯飲まして吳れよといへど既に熟柿臭くなつて居る故體よく斷はりしも仲々に聞き入れざるより有合せのものにて六十錢ばかりの酒肴を出せしに萬吉は酩酊し居りしことゝて雇人の茨木カツが何とか言つたことが氣に觸つたと見えて其の面部を毆打し亂暴に及べるより巡査に出張を仰ぐ始末となりしが故意にもあらざることゝて醉の覺むるを待つて說諭の上放免せられたり

●文なしの散財　大分縣北海部郡馬木村の者にて目下新町二丁目に住する小野季記(三十七)は去る八日の夜南山町一丁目の末廣亭に到り一圓七十錢ばかりの散財をなしたるが其の金を所持せざりし爲めに警察署へ連れ行かれよい恥をかくの如し

●八十圓の窃盜(雇韓人)　去る八日の夜本町二丁目の飲食店吉見キク方にては賴母子掛金の用意にとて帳場の手提金庫の中に金八十圓を入れ置きしに一寸の間に紛失せしを以て警察署へ屆出たるにより巡査出張して取調べて見ると雇韓人釜山鎭者管生れの文書房(二十)が其の頃より外出して行衛不明となりしを以て加害者は同人ならんとの嫌疑はあるも未だ其の所在發見せずと

●五雲會四月番組●●●●●
蟻通、八島、雲林院、放下僧、
誓願寺　以上
第二日曜日、場所本願寺別院

●[illegible]九八支配人辭職●●●●●　昨今兎角の評ある第五十八銀行の仁川支店長にして開地居留民會議員たる板倉政太郎氏は今回同行を辭し歸國すべしと云ふ

本店 東京市日本橋區兜町
內地支店及出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎮南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城
清國出張所 安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

電話番號 營業部 一番 當直用 同 營業部 三三一番
國庫部 六一番 用度係 六二番 分拆所 六三番

總支配人 市原盛宏
副支配人 國庫部長 三島太郎
副支配人 調査部長 竹山純平
副支配人 營業部長 本村雄次

綿絲第一回景品券發行廣告

三月一日以降日本各港ヨリ積出シタル二十番手及其以下ノ綿糸ニ對シ毎梱(大俵)ニ付キ景品券一本ヲ附贈ス
景品ハ左ノ七等ニ區別シ本年七月上海ニ於テ抽籤ヲ行ヒ同地ニ於テ景品券引換ニ之ヲ交付ス
但シ五等以下ノ景品ハ在天津、香港、牛莊、芝罘、青島、漢口、釜山、仁川、平壤本會代理店ニ於テモ之ヲ取扱フ

第一等 日本綿糸十六千八十梱 此價格墨銀壹萬弗 壹本
第二等 每二十四梱 同 三千弗 二本
第三等 本 四梱 同 五百弗 十本
第四等 同 一梱 同 百廿五弗 三十本
第五等 同 半梱 同 六十二弗五十仙 百本
第六等 同 四王 同 十弗 千九百本
其他總テ七等トシ美術繪葉書一組ヲ呈ス
三月一日以前ニ日本ヨリ輸出セルモノト雖モ未ダ輸入港ニ滯停セルモノニ對シテハ其申出ニヨリ特ニ景品券ヲ贈呈ス
但シ詳細ノ手續ハ本會代理店ニ就キ御問合セ可下被候
明治四十一年三月

清國上海福州路第五號
大日本紡績聯合會出張所

韓國代理店 仁川港本町 三井物産合名會社

銀行一般業務精々御便利ニ取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓

本店 長崎市築町
支店出張所 京城、仁川、釜山、木浦、群山、元山、龍山
韓國 京城、仁川、釜山、木浦、羅州、群山、龍山、元山
日本 大阪、佐世保、熊本、鹿兒島、伊萬里、嚴原、唐津、壹岐
其他日本韓國樞要地及清國營口ニ於テ爲替取引仕候
貯蓄預金(一口金壹圓以上何程ニテモ御預リ申候 利息日歩金壹錢四厘)
長崎貯蓄銀行代理店 十八銀行京城支店

株式會社 十八銀行京城支店
京城南大門通(電話四二〇)

出寫專務

寫眞師 高原華泉
寫眞師 奧田星華
審美館 明治町二丁目衛戍病院前

西洋御料理宴會
日本人俱樂部
京城南山町三丁目(電話一二三番)

木炭着荷
京城南大門通三丁目
英兄弟商會
電話九四八番

京城明治町一丁目(漢城病院向筋入)

高等下宿 日の出館

弊館は設備完全にして最も閑靜なり
弊館は叮嚀懇切を以て特色とす

齒科診療

漢城病院を辭して開業す
前東京醫科大學勤務
統監府囑託 飯塚徹
東京共立齒科醫學校講師たりし 藤井庄次郎氏を聘す 仁川分診所主任として
京城診療所 南山町三丁目第一銀行横五軒目
仁川分診所 仁川病院前の角 每五、十日出張
診療時間 午前八時より午後四時迄 夜間七八時迄 每五、十日京城新來休診

銀行一般の業務特々御便利に御取扱可申候
資本金 三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山、仁川、平壤、鎮南浦、安東縣
株式會社 第五十八銀行京城支店
(電話五八番)

爲替取組先 京釜北山臺
內 道道道道
二十七ヶ所 十三ヶ所 七十五ヶ所 二十三ヶ所 五ヶ所 二ヶ所
東北山西韓清
海陸陽 道道道
一九三十十二 十三 ヶ所

● 大勉強廣告 ●
○うなぎ蒲燒 ○會席御料理
○うなぎさん ○親子さんぶり
本町座前大和湯向
きく紋
電話九百五十四番

內外書籍新聞雜誌
文房具學校用品
和洋雜貨日用品
大阪朝日新聞 大阪每日新聞
一ヶ月四十五錢 一ヶ月四十五錢
京城本町三丁目
平田商店
(電話百十五番)

新炭 石炭 たろし 食料品
雜貨 小賣 諸官衙御用達
京城長谷川町一丁目
神野商店

齒科全般の治療
米國最新式義齒
米國齒科醫學博士 女醫 中村安子
京城本町六丁目(敷そば横町)

統監府御用
各官衙御用
荷物荷造及運搬
本店 營業部 京城本町三丁目
伊藤組
伊藤友松
(電話七百三十二番 四十番)

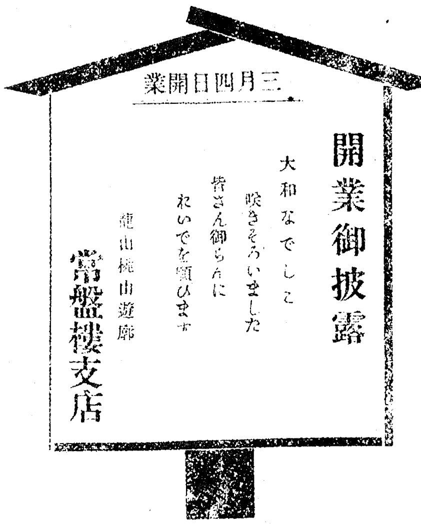
熊平製造金庫
東京 竹內製金庫
大阪二重瓶並ニ回轉式 消火器
韓國販賣部
京城本町二丁目
熊平商店
電話六二四番

開業御披露

富士 春日 不知火 日進 敷島
香取 松島 鹿島
仲居 やゑ きく

野山色づく昨今の春日和に香り床しくも桃山遊廓に開業したる弊樓は花の京都梅の浪華の枝振りよき初花を取揃へ料理萬端も三府の粹を拔き差上可申候間梅か櫻か桃山の今日咲き競ふ花の木蔭に御來駕待ちはべるになん

龍山桃山遊廓
一樂樓
電話百五十四番



本月十日ハ韓國ノ乾元節ニ付休業候間爲念廣告候也
株式會社第一銀行京城支店
株式會社十八銀行京城支店
株式會社第五十八銀行京城支店

移轉廣告

弊店儀從來長谷川町本願寺前にて營業致來り候處今般業務擴張の爲め同書の處へ移轉致し候間倍舊御引立の程只管奉懇願候 敬白
京城西小門通(大漢門横)
食料品雜貨 新炭及石炭 諸官衙御用達
神野商店

會席御料理
並に仕出し
○永登浦亭

廣告

一堅牢なる中古荷車
右多數着荷仕り候に付多少共御用命の程願上候
京城南大門(千葉館前)
源 小宮山運送店支店
取次電話一二九番
仁川驛上ル
源 同 本店
電話七一六番

本店 仁川理事廳通(電話三三一番)
支店 京城南山町(電話一〇七番)
原金旅館

日本郵船株式會社
仁川出帆廣告
電話十番
仁川海岸通
貨物及船客取扱店
郡回漕會
電話三九番
京城南大門通
巴商店
電話三〇六番

● 釜山、長崎、門司、神戸行 山東丸 三月十五日 後三時出
● 群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 第一オハヨ號 三月七日 後四時出
釧路丸 三月八日 後三時出
● 大連、大沽行 高砂丸 三月五日 後三時出
山[illegible]丸 三月五日 後四時出
● 大連、大沽、牛莊行 酒田丸 三月十九日 後一時出
● 鎮南浦行 第一オハヨ號 三月四日 後三時出
● 釜山出帆、元山行 弘前丸 三月十一日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候 送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事